

## 会 議 録

|                |   |   |    |
|----------------|---|---|----|
| 会議名<br>(審議会等名) | 平成21年度第4回小金井市廃棄物減量等推進審議会  |   |    |
| 事務局<br>(担当課)   | 小金井市ごみ対策課   |   |    |
| 開催日時           | 平成21年11月26日(木) 午後6時00分から午後8時00分まで   |   |    |
| 開催場所           | 小金井市内   |   |    |
| 出席者            | 委員  | <出席者; 13名><br>大江会長、庄司副会長、本木委員、清水委員、佐藤委員、鴨下委員、<br>澤島委員、伊藤委員、平林委員、川口委員、 簗口委員、原委員、<br>小島委員<br><欠席者; 2名><br>竹内委員、恩田委員 |    |
|                | 事務局   | ごみ対策課; 副市長兼環境部長事務取扱、三上ごみ処理施設担当部長<br>鈴木ごみ対策課長 三浦ごみ処理施設担当課長<br>柿崎ごみ対策課長補佐<br>中福 府川 千賀                               |    |
| 傍聴者の可否         | 可   | 傍聴者数  | 1人 |
| 会議次第           | 1 「平成22年度一般廃棄物処理計画(案)」について諮問<br>2 報告事項<br>ア 平成21年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について<br>イ 新ごみ処理施設建設事業の進捗状況について<br>3 「平成22年度一般廃棄物処理計画(案)」について審議<br>4 その他 |   |    |
| 会議結果           | 別紙審議経過のとおり  |   |    |
| 提出資料           | 別添のとおり  |   |    |
| その他            | 次回開催予定 平成22年1月28日(木) 801会議室   |   |    |

平成 21 年度第 4 回廃棄物減量等推進審議会 会議録（主たる発言）

|      |  |
|------|--|
| 大江会長 | 開会<br>人事異動について説明をお願いします。   |
| 副市長  | 11 月 5 日付けで人事異動があったので次のとおり報告する。<br>深澤 義信 環境部付参事(二枚橋衛生組合派遣)<br>(旧 環境部長兼中間処理場担当課長事務取扱)<br>大久保 伸親 副市長兼環境部長事務取扱(旧 副市長)<br>吉沢 富士夫 中間処理場担当課長兼施設係長事務取扱<br>(旧 中間処理場担当課長補佐)   |
| 大江会長 | 第 3 回廃棄物減量等推進審議会の会議録の確認についていかがか。   |
| 委員   | 特になし   |
| 大江会長 | 第 3 回廃棄物減量等推進審議会の会議録について確認されたこととし、公開の手続きをする。<br>議題(1)の「平成 22 年度一般廃棄物処理計画(案)」の諮問を受ける。   |
| 副市長  | 「平成 22 年度一般廃棄物処理計画(案)」について諮問<br>(諮問書の写し配布)   |
| 大江会長 | 「平成 22 年度一般廃棄物処理計画(案)」について諮問を受けたが、これに係る審議に入る前に報告事項をお願いします。   |
| 三浦課長 | 「ア 平成 21 年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について」説明する。<br>本市の燃やすごみの処理は、現在も引き続き八王子市、昭島市、国分寺市、多摩川衛生組合、日野市及び今年度の契約期間は終了しているが、三鷹市を含めた 6 団体に支援をいただいている。施設周辺の方々並びに関係者の皆さまには深く感謝申し上げます。<br>なお、10 月末日での家庭系可燃ごみの搬入量は 8,337 t であり、20 年度 8,595.5 t に対し、3.1%程度の減少傾向を示している。<br>これは、あくまで年度の中間の数値であるので、ご理解をいただきたい。 |
| 大江会長 | 質問等あるか。  |
| 委員   | なし   |
| 大江会長 | 「イ 新ごみ処理施設建設事業の進捗状況について」説明願いたい。  |

|      |  |
|------|--|
| 三浦課長 | <p>現在、二枚橋衛生組合の構成3市では、平成21年度末の組合解散に向けての進捗を図ることが優先課題となっている。</p> <p>11月9日開催の二枚橋衛生組合第2回定例会において、組合敷地の分割案等が提示されたのでご報告する。(平成21年11月10日新聞写しにより説明)</p> <p>当日の組合議会では、事務局から敷地の3分割(案)が提示された。この間、敷地の分割方法については、構成市間で協議を重ねてきたが、以下3点の基本事項が合意されたことにより、事務局から分割案が提示されたものである。</p> <p>① 分割後の配分地は可能な限り当該市域の中にあること<br/> ② 1つの区画としてまとまっていること<br/> ③ 跡地利用に妨げとならないよう、それぞれ組合敷地の東側道路に接していること</p> <p>組合敷地の約11,000㎡を3分割し約3,700㎡ずつ各構成市に帰属される。</p> <p>分割案は、市域を中心とした配分となっており、調布市、小金井市はそれぞれの市域の中に配分される。しかし、府中市は、市域面積が約2,000㎡となっているため、調布市、小金井市域から約1,700㎡を提供される形となり、敷地がL字型となる。</p> <p>組合議会清算特別委員会の中では、府中市選出議員の方から「府中市の土地は不整形地のため利用価値が低く不平等だ。」との意見が出され、また、府中市長からは、「配分された土地を利用しないという選択肢もある。」との答弁もあった。</p> <p>その他、事務局から「二枚橋衛生組合の財産処分に係る協議書」、「二枚橋衛生組合の解散に関する協議書」及び「平成21年度末組合解散スケジュール」等も提出されたが、組合解散及び財産処分については、各構成市議会での議決事項となるため、構成市又は構成市議会の対応となるものについては、その状況を見守ることとし、各構成市の12月議会での議決に向け3市で歩調を合わせ、事務手続きに遺漏のないよう取り組むこととなった。</p> <p>現在、各構成市とも12月議会での組合解散議決に向けて準備を進めているところであり、今後もこれらの状況については、随時、当審議会へ報告する。</p> |
| 大江会長 | <p>意見、質問はあるか。</p> <p>敷地を3分割することは、いつ頃決まっていたのか。</p>  |
| 三上部長 | <p>財産分割に関しては、構成市3市とも1/3ずつ権利を有することを平成17年7月の組合議会で確認されている。しかし、具体的にどのように整理していくかは、この間、集中的に協議して決まった。</p>   |
| 本木委員 | <p>見通しはどうか。</p>  |

|       |  |
|-------|--|
| 三上部長  | <p>建設場所の決定ということにかかってくることであるが、3分割後の跡地利用の問題と密接に係わってくる問題だ。現時点では組合の解散を最優先に進めているので、跡地利用については話しができる状況ではない。</p> <p>しかし、4月以降のごみ処理が大きな問題としてある。将来的に安定してごみ処理ができる施設の建設という面では大変重要な時期である。従前から両市に対して跡地利用の申し入れをしている。</p>               |
| 大江会長  | <p>焼却炉は位置的にどの辺りか。</p>  |
| 三浦課長  | <p>位置関係について、説明する。</p> <p>新聞の記事のとおり、北側が小金井市であるが、現在はプールと風呂等の施設がある。焼却炉は小金井市と調布市の市境の辺となる。</p>  |
| 庄司副会長 | <p>現有の市境の外にまたがって分割案があるように見えるが、分割案は現有の小金井市の市域を若干出っ張っているが、市域の変更はあるのか。</p>  |
| 三浦課長  | <p>二枚橋焼却場用地は3市の市境にあり、11,000㎡は3市にまたがっている状況であるが、行政区域の変更をする主旨では協議をしていない。</p> <p>11,000㎡を1/3ずつ分割すると1市当たり3,700㎡になる。</p> <p>小金井市、調布市は行政面積が3,700㎡以上なので市域の中に入る。しかし、府中市については2,000㎡しかないので足りない分を調布市、小金井市の行政面積から加えていくということとなる。</p> |
| 小島委員  | <p>調布市の三角形の出っ張っているところに住居はあるのか。</p>   |
| 三浦課長  | <p>西側には西武線が走っており、その左側は武蔵野公園である。一番近いところでは府中市の住民が武蔵野公園の脇に住んでいる。</p>  |
| 佐藤委員  | <p>小金井市の二枚橋跡地の利用について、府中市は賛同いただけると聞いているが、調布市については、何度か交渉すれば、理解していただけるのか。</p> <p>議員の方々は二枚橋跡地の利用について、統一した意見になっているのか。</p>   |
| 三上部長  | <p>現時点では解散優先で進めており、跡地利用にかかる他市の考え方については申し上げられない。しかし、平成19年3月、調布市議会で決議が出ており、その内容は、調布市域に二つの焼却場はいらないというものである。</p> <p>現在、三鷹市と共同して新たな処理施設の建設計画が進行しており、小金井市が二枚橋焼却場用地に処理施設を建設することには反対している。この主張は現時点においても変わっていない。</p>             |

|            |   |
|------------|---|
| 伊藤委員       | <p>小金井市では、一応、二枚橋焼却場用地に処理施設を建設することが決まっているのだが、最終的にはいつ頃決着するのか。</p>   |
| 三上部長       | <p>建設場所の決定の手続きということでは、現時点では、二枚橋焼却場用地を建設場所にする正式な手続きをしているわけではない。市民検討委員会から二枚橋焼却場用地という答申をいただき、市としてはそれを尊重する立場で、これに基づき事業を進め、関係市との協議を進めている。</p> <p>平成 21 年度内に建設場所を決定していく手続きを進めているところであり、これをきちっとやらないと、次年度 4 月以降のごみ処理に大きく影響するところである。</p> |
| 簗口委員       | <p>二枚橋衛生組合の解散以降、府中市が小金井市に協力してくださり、売却してくださったとき、そこに小金井市が処理施設を建てたいとした場合、法的に調布市が反対することができるのか。</p>   |
| 三浦課長       | <p>分割した後はそれぞれが所有権を有するとともに、府中市の協力があつたとしても、調布市域については、調布市の条例等により一定の制限が生じることがある。</p>  |
| 平林委員       | <p>3 分割しても位置によって地価が変わると思われる。それでもこの形はかわらないのか。そのような前提で決めたのか。三等分というのは金額なのか、土地なのか。</p>  |
| 三上部長       | <p>等積で 1/3 ということである。</p> <p>昭和 33 年から焼却をしてきているが、焼却灰が埋立てられていたことも判明した。また、詳細な調査により、地下に汚染土壌があることも分かったし、地下にはピット等含め、かなりの構造物も存在している。また、焼却施設として都市計画決定されている。この土地の価値を見るには、現時点では、鑑定評価をするのであるが、評価自体が難しい。そのため 3 市で等積で行うということで合意をした内容である。</p> |
| 大江会長<br>委員 | <p>何か質問はあるか。よろしいか。</p> <p>なし。</p>   |
| 大江会長       | <p>(3)「平成 22 年度一般廃棄物処理計画（案）」についての審議に入る。資料について説明願いたい。</p>  |

|      |  |
|------|--|
| 千賀係長 | 「平成 22 年度一般廃棄物処理計画（案）」について説明   |
| 大江会長 | 質問、意見等あるか。   |
| 小島委員 | <p>P-1 見出し「ごみゼロタウン小金井を目指す」という表題について、前年度は「最大限のごみ減量を目指す」であったが変更した理由は何か。</p> <p>「ごみゼロ」はありえない、学識的な見解は「ゼロに限りなく近い。」という考え方をしているが、「ゼロ」という言葉には注意が必要だと気になった。</p>                                 |
| 府川主任 | <p>「ごみゼロタウン小金井」というのは、市長が市報に「ごみ減量大作戦」というコラムを継続的に掲載しているが、その中の標語で掲げているものである。ごみを完全になくすのは無理であるが、一人ひとりの協力がなければ、少なくとも減量にはつながらない。地域がコミュニティとして、タウンとなって協力し、少しでもごみをなくし限りなく「ごみゼロを目指す」という評語である。</p> |
| 本木委員 | <p>なぜ前年度のものではいけないのか。「ごみゼロ」より「最大限のごみ減量を目指す」のほうが良いのではないか。</p>  |
| 小島委員 | <p>全国で第 3 位であれば、「タウン」で言えば「ミニマム」であり、目指す目標としては良いのではないかとも思う。</p>  |
| 佐藤委員 | <p>自分のごみを出していないという人もいた。生ごみは土に生め、鼻紙はトイレに流し、1 ヶ月に小袋 1 回ぐらいしか出さないというように聞いた。「ゼロ」ではないが努力をしている人もいる。</p>  |
| 平林委員 | <p>「ごみゼロ化推進会議」という組織もあるが、「ごみゼロ」は掛け声だと思う。「ごみ減量」は当たり前過ぎてピンとこない。みんなで一生懸命やろうということを含めて「ごみゼロ」であると思う。</p>  |
| 大江会長 | <p>意見を踏まえ事務局で考えていただきたい。</p> <p>他に意見はあるか。</p>   |
| 平林委員 | <p>数字を追いかけているだけではなく、どうしていこうか、具体的にどう減量していくかではないか。ごみゼロ化推会議の中でも、具体的な方法について意見があったようだがどうか。</p>  |
| 本木委員 | <p>市長にも課長にも提起したことであるが、ごみゼロ化推会議は、発足以来 3 年経過し、まんねり化している感もあり、活動の方法を少し変え、アドバイザー制度を設置したらどうかということだ。一点目は、専門的な知識を持ったも</p>  |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>のにより、生ごみ処理機を普及させ、生ごみの減量化を図っていくということ、二点目はごみの分別等がわからず困っている人のために、地域の中の委員で対応できるよう配慮したらどうかということだ。</p> <p>このことについて、本処理計画の中に入れてもらうよう提起しなければならないと考えている。</p> <p>本市の場合はごみ減量が進んでおり、これ以上の減量を図るためには「生ごみの水切り」「資源になる古紙の徹底分別」の2点に絞って活動したらどうかと考えている。次年度の計画には是非このことについて内容を明確に盛り込んで欲しい。それには若干の予算が必要だ。本来はボランティア活動ではあるが、しかしこれを実施するには、財政的に考えてもらいたい。</p> |
| 伊藤委員 | <p>今年度のごみ減量施策を検証し、次年度は前述の2点「生ごみの水切り」と「古紙の分別」を加味しながら、「充実させる施策」や「継続する施策」等これまでやってきたものをさらに充実、継続しようというものはあると思う。</p> <p>街を歩いてみても、戸建住宅より集合住宅のほうが、ごみの排出はいい加減で散らかっているのを見受ける。②のイの単身者専用住宅における指導という記述であるが、指導班体制による指導とは、具体的にどのようなことをしてきたのか。また、できなかった部分については、次年度どのように力を入れていこうと考えているのか。</p>   |
| 鈴木課長 | <p>平成19年度に指導班を設置し、市民に対し様々な排出指導をしてきた。当初、プラスチックの排出について、容器包装リサイクル法にかかるランクが「Dランク」だったことがあり、現在、主にプラスチックごみの排出について、力を入れている。</p> <p>平成21年度については雑紙の分別について、雑紙リサイクル袋を使った指導にも入っている。今後、燃やすごみについても、力を入れて指導に入っていきたい。</p>   |
| 平林委員 | <p>その他に行政として何か考えはあるのか。何もしないで数字がどうなるかというだけではだめだ。以前、専門委員会を立ち上げる提案をしたが、本審議会のメンバーでもよいし、新しい人を招いてもよい。具体的な案を市民が出し、それに対して行政が考えを示すことが必要だ。計画書で数値を比較するレベルではない。現在、毎年5億円ぐらい余計に予算がかかっているが、新処理施設の稼働はまだ何年もかかる。その先、国分寺市とどうするのかも関連させて、小金井市としてどうするのか実際のテストだけでもしてみる必要がある。コストは現在処理しているコストの範囲でできる方法を考えればできるはずだ。</p> <p>行政ではどのように考えているのか伺いたい。</p>           |
| 鈴木課長 | <p>単年度の処理計画であり、当然数字によって処理量を積算し、施策を通じて減量していくことになる。「新たに何かをするか。」が出てこないというご</p>  |

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>意見であるが、P-5①「新たに実施する施策」ではア～オで生ごみについて、地域循環型社会の構築、また、市民の啓発等にも力を入れる等の計画をしている。その他、提案等があれば検討させていただき、着実にごみ減量を図っていく。</p>  |
| 平林委員   | <p>具体的には何もないということか。</p>  |
| 鈴木課長   | <p>生ごみについても資源化に向けて努力し、啓発についても行っているということである。</p>  |
| 平林委員   | <p>資源化と啓発で実際の処理をどうするかは、考えてないということか。</p>  |
| 鈴木課長   | <p>単年度に市内から発生するごみをどう処理するかという計画であり、中間処理をどうするかということは、この計画にはなじまない。</p>  |
| 平林委員   | <p>この計画になじまないというのはどういうことか。単年度だからか。</p>   |
| 三上部長   | <p>これまでも、このような形で審議会のご意見をいただきながら、処理計画を作ってきた。基本計画に基づいて毎年度の処理計画を作るものであり、年度ごとにごみの処理量をどのようにして減らすかという計画を作っていくことが大前提である。何年もかかって積み上げ、平成 17 年度のごみ有料化実施以降も、これまでごみは減量しているということもある。年度ごとに見れば内容が薄いという意見があるかもしれないがご理解いただきたい。</p> <p>排出されたごみをどうするか等、中間処理の内容についてはこの計画にはなじまない。</p> |
| 佐藤委員   | <p>路線バスで「ごみ非常事態宣言」を PR するとなっているが、その他、大型店舗や各商店街等を利用してチラシを配布し貼ってもらう等したらどうか。</p>  |
| 大江会長   | <p>そのような努力はしているのか。</p>   |
| 柿崎課長補佐 | <p>「ごみ非常事態宣言」の PR については、毎月 1 回継続的にごみゼロ化推進員の協力を得て、キャンペーンを実施しており、また、年 2 回議員の方々の協力もいただき、駅頭等でキャンペーンをしている。横断幕については、台風の時期があり現在外している状態だが、市内各所に掲出した。「新たに実施する施策」では路線バス内での PR を計画している。また、市民まつりでのごみ減量キャンペーンの実施、市報では、年 4 回の特集号の発行、さらにコバス及び収集車両にはバスマスクによるアピールをしている。</p>       |

|      |   |
|------|---|
| 佐藤委員 | <p>予算を使わずとも商店街は人が集まるところであり、PR の効果がある。<br/>       ビのところに大きく表示している店もあり、きめ細かなアピールが必要ではないかと思う。</p>  |
| 大江会長 | <p>啓発活動は継続することが大切だ。マイバグ持参運動にしても、声かけ一つでずいぶん違う。市民に対する啓発も事業者に対する啓発も「ごみ非常事態宣言」であることを継続的に訴えることが大切である。</p> <p>施策については、前年度との比較が分かるように一覧表で整理されているとよいと思う。</p> <p>平林委員からのご意見は本審議会の後段での課題である。基本計画の見直しであるが、すでに目標値を達成しており、見直しの中で、何を一番優先してやるのか等の議論をしていかななくてはならない。</p> <p>前回、基本計画に掲げた施策の洗い出しと、その達成度により様々な意見が出た。それを踏まえ 22 年度処理計画にも部分的に反映させていく必要があるが、基本的には処理基本計画の中に盛り込んでいかななくてはならないと思う。</p> <p>また、3R 取組み上位市町村で、人口 10 万人以上 50 万人未満では、全国でリデュース（1 人 1 日当たり）が 3 位、リサイクル率では 4 位である。小金井市よりも上位はどのようなところであったか。</p> |
| 鈴木課長 | <p>以下のとおりである。</p> <p>リデュース 1 位 沖縄県うるま市 2 位 長野県佐久市<br/>       リサイクル率 1 位 神奈川県鎌倉市 2 位 岡山県倉敷市 3 位 東京都調布市</p>   |
| 大江会長 | <p>小金井市より上位は地方都市であり、小金井市は都市部では頑張っている。リサイクル率で調布市が僅かな差で上位にいるのはなぜか。</p>  |
| 簗口委員 | <p>前回、啓発チラシの配布等広報活動に力を入れているという報告だった。</p>  |
| 鴨下委員 | <p>P-7③「継続する施策」アの集団回収についてであるが、子供会連合会はごみに関する話し合いをあまりしておらず、資源回収の目的は団体の活動資金の捻出だと思っている。集団回収することが市にどのように貢献できているのかは、全然分かってないのが現状である。集団回収と市の行政回収との違いが分かる資料などにより、市民に PR し、理解してもらえば資源回収も進むのではないかと。子供会としては、資料をもらい話題にすることによって意識を広めたい。</p> <p>新聞等の資源を回収日まで家に置いていくと、ごみと混ざってしまうという話しや、細かいところまではなかなか分別しにくいという話しも聞く。</p> <p>資源回収の啓発を進め、少しでも市の事業に貢献できたらよいと考える。</p>   |

|        |  |
|--------|--|
| 大江会長   | <p>啓発活動、情報提供の充実だと思うが、具体的な部分が入ればさらに積極的な活動につながると思う。</p> <p>本木委員からの提案にあったように、水切り、古紙分別の徹底等と同様、子ども会の活動等も、具体的な方策がはっきりしてくればよいのではないかと。</p>   |
| 本木委員   | <p>①「新たに実施する施策」ウ「電動式生ごみ処理機の講習会を実施し」等の記述があるが、電動式生ごみ処理機の利用を強化するということか。</p>   |
| 柿崎課長補佐 | <p>電動式生ごみ処理機について、使い方が分からない等の声もある。現在、堆肥化バケツによる生ごみリサイクル教室を年に4回実施しているが、今回は、そのうちの2回を電動式生ごみ処理機の使い方について、新たに講習会を実施し、利用者の拡大を図るものである。</p>   |
| 本木委員   | <p>生ごみ処理機が普及することによって生ごみは減る。ごみゼロ化推進員の中にも生ごみ処理機を使っている人は沢山いる。たとえば、市内の生ごみ処理機の利用者が倍になれば、ごみは倍減ることになる。そういう施策をしないかということだ。</p> <p>そのために、ごみゼロ化推進会議はアドバイザー制度を作り、その人たちが勉強して市民に説明をしたらどうかと考えている。</p> <p>市民まつりでは展示をし、業者ではなく自分たちが使い方の説明をした。たとえば「繊維質のものは少し切ってください。」等の説明に市民は結構関心を示していた。</p> <p>今、市役所4階に生ごみ処理機が展示してあるが、市民は市役所まではなかなか行かない。たとえば、今後、公民館等何か所かに生ごみ処理機を設置し、日時等を決め、ボランティアで説明員を置き「説明しますから、是非見に来てください。」とそこまでPR活動をやるか。それをしないとごみは減らないと考えており、そのための講習会が必要だということだ。</p> <p>3R上位市町村で1位になるくらいの迫力のある取組みをしたらどうか。</p> |
| 佐藤委員   | <p>夏休み期間には、学校の生ごみ処理機を利用し9:00から10:00までの間ボランティアの人がいて、市民が家庭ごみを投入している。もう少し大きな機械を市内の何か所かに設置し、市民が利用できるようにしたらもっと減量できて1位になるのではないかと。</p>  |
| 平林委員   | <p>一定の条件を備えた何種類かの機種を、一定の値段で小金井市が推奨するというようなことを、生ごみ処理機のメーカーと交渉したらどうか。もっと少ない予算で、多くの人に利用してもらえないのではないかと。</p> <p>たとえば、3種類ぐらいの機種に決め、小金井市が推奨したものであれば、</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
| <p>鴨下委員</p>  | <p>ごみゼロ化推進員やボランティアがいて説明するようにしたらどうか。そのほうが、予算が少なく効果が上がる。市場に出ている値段で補助制度だけではもったいないと思う。</p> <p>せっかく買ったが、隣の家に音が洩れて苦情があり使えないという人がいると聞いている。そういうこと等を考えて機種を選んだほうが良いと思う。</p>  |
| <p>庄司副会長</p> | <p>ごみがここまで減量してきたのは、市が置かれている状況と市民が協力してくれた結果であり、相当効果が出ている。さらに減らすのはかなり難しい。</p> <p>数値目標は出ているが、具体的な施策は「何をする。何をする。」と列挙しているだけであり、この計画を、さらに積み上げ、結果を出していこうとするにはこの書き方では甘い。</p> <p>施策ごとにどれだけ減らすかを出している場合もある。しかし、啓発だけで意識を変え、何%減らすというのはできない。生ごみ処理機の場合は何台でこれだけ減らすというはある程度の試算はできる。小金井市は実績を積んでおり、調査をすればこれまでの減量実績と今後の設置計画により、ある程度の数値は出るのではないかと。それをしないで施策を並べるだけでは市民も何をしたら良いか分からない。メニューを細かくする時期に来ているのではないかと。この施策の中に試算が可能なものもあるのではないかとと思う。</p> <p>P-4①「ごみ処理見込み量」の表で21年度と22年度の「見込み量」がある。この「見込み」という量とP-6②「目標を達成した場合の処理量」の表で「見込み量」が19,097tと示してある。本計画の減量を目指した計画量としては19,097tが目標量になるという位置づけと理解している。P-4①の表の「22年度の見込み」というのは21年度の施策と同じことをしていた場合の「見込み量」なのかどうか確認したい。そうであればこの「見込み量」という書き方は他にあるのではないかとと思う。</p> <p>P-5「市民一人あたりの発生量の目標 651g」とあり、P-6参考として「市民一人あたりの発生量の目標 651g」とある。22年度と21年度の目標が変えないというところの説明をお願いしたい。</p> |
| <p>府川主任</p>  | <p>P-4、P-6の数値については、次回までに精査しお答えいたしたい。</p>   |
| <p>庄司副会長</p> | <p>書き方としては、目標数値を可能な範囲で示すことが必要であると思う。</p>   |
| <p>本木委員</p>  | <p>啓発では数値は出ないので、そのまま良いと思う。</p> <p>ここまで来た以上、さらに減らすには何かやらなければならない。たとえば水切り、生ごみ処理機、古紙の分別をどうするかである。また、モニター実施した雑紙リサイクル袋は続けるのかということだ。</p> <p>雑紙リサイクル袋には新聞屋がくれるサイズが使いやすく良いと思う。新聞屋と提</p>  |

|              |   |
|--------------|---|
| <p>庄司副会長</p> | <p>携し「小金井市」と啓発グッズを入れて配布してもらうなど考えたかどうか。<br/>       ここまで減量すると、施策を沢山並べても市民に受け入れられにくい。<br/>       平成 22 年度は、「古紙の分別、水切りの徹底を求める」などの書き方はどうか。</p> <p>生ごみはかなりの量は水分である。生ごみのごみ量を発表する場合、湿ベースと乾ベースがあるが、ある市では湿ベースだと 30%ぐらい、乾ベースでは 8%ぐらいである。その差は水分だ。最初から水を切っておけば相当減る。「水切りしてください。」ではなく「水切りすると何%減る。」というふうに出す。また、「乾燥型生ごみ処理機の場合は何%減る。」「手で絞る」「置いておく」だけでもごみ減量につながる。具体的な数値目標を出せるものについては細かな施策の展開が必要であると思う。</p> |
| <p>平林委員</p>  | <p>計画書とか実績が小金井市の場合、可燃ごみの中の生ごみ、古紙、混入しているプラスチック、剪定枝の重量で計算していた。これは、続けた方が良いと思うが、昨年、乾ベース、湿ベースで出ていたが、組成の割合が前と比較し分からなくなり途切れているという気がする。これも継続した方が良いと思う。</p> <p>市民が古紙を持っていけば、業者が古紙を買い現金になる。場所の設定が難しいが、場所を上手に確保し、インセンティブを含めたリサイクルの仕組みを作る必要がある。どう処理するかはこの会議になじまないということであったが、もう一歩踏み込む必要があると思う。</p>   |
| <p>庄司副会長</p> | <p>集団回収を活用して強化するのは一つの方法だとは思う</p> <p>減量の具体的な数値目標をある程度出して行く方法として、分別を徹底することを数値目標化するのは不可能ではない。ごみの組成分析をしているのだから可燃ごみの中に紙ごみがどのくらいあるかわかる。また、その中にリサイクルできる紙がどのくらいあるかは少し細かく組成分析する必要がある。仮に 10%資源化できるものがあるとしたら分別の徹底によって 0 にはならないが半分にはなる。それによりリサイクル率が何%上がると出てくる。</p> <p>分別を徹底することによって資源化率を何%あげると目標を立てることは可能であり、それだけでなく数値を出すことも必要だ。</p> <p>また、事業系一般廃棄物の減量計画が協力義務とだけになっているが施策化、体系化しても良いのではないか。</p>      |
| <p>大江会長</p>  | <p>家庭系生ごみ減量化処理機器購入費補助制度は継続しているか。</p>  |
| <p>鈴木課長</p>  | <p>継続している。</p>  |
| <p>小島委員</p>  | <p>施策の項目の比較表があったほうがわかり易い。</p>   |

|       |   |
|-------|---|
| 千賀係長  | <p>平成 19 年度に制度の拡大を図り多く方にご利用いただいた。その後、制度の利用はあまり伸びていない状況である。これまで購入していただいた方が失敗せず、継続的に使っていただくように、また、まだ使っていない方も講習会に参加していただきぜひ購入し使っていただくような施策として掲げ、①「新たに実施する施策ウ」の中に含んでいる。</p> |
| 大江会長  | <p>継続する施策に入れたほうが良い。</p>   |
| 事務局   | <p>了解した。</p>  |
| 庄司副会長 | <p>生ごみ処理機の利用状況などは付属資料につけるほうが良い。</p>   |
| 庄司副会長 | <p>補助件数、補助経費、ごみの減量の推計等を出すことにより、利用者を増やし、それによってどのくらい減量できるかが、数値となって表せる。</p>  |
| 庄司副会長 | <p>それが、市民のごみ減量意識の動機付けになる。</p>   |
| 小島委員  | <p>生ごみ処理機購入費補助事業の経費および効果等、そろそろ検証が必要な時期に来ているのではないか。</p>  |
| 平林委員  | <p>生ごみ処理機利用者からアンケートをとって利用状況を把握したらどうか。</p>   |
| 大江会長  | <p>1 年ぐらい前に実施し、資料はある。その結果が①「新たに実施する施策ウ」につながっていくこととなる。</p>   |
| 本木委員  | <p>古紙の回収日には、市が回収する前の持ち去りがあり、半分ぐらいに減ってしまっている。本来は相当数の量が出ていることになる。</p>   |
| 大江会長  | <p>各市同様の状況が見られる。</p>  |
| 大江会長  | <p>P-5「ごみの減量目標」について、施策とリンクさせて数値が何%と出せるものは出していくほうが動機付けとしてよい。次回に向けて検討していただきたい。</p>  |
| 大江会長  | <p>次回 1 月 28 日（木）6：00～</p>  |
| 大江会長  | <p>閉会</p>   |

平成 2 1 年 1 1 月 2 6 日

平成 2 1 年度第 4 回小金井市廃棄物減量等推進審議会次第

1 開会

第 3 回審議会会議録の確認

2 議題

- (1) 「平成 2 2 年度一般廃棄物処理計画（案）」について諮問
- (2) 報告事項
  - ア 平成 2 1 年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について
  - イ 新ごみ処理施設建設事業の進捗状況について
- (3) 「平成 2 2 年度小金井市一般廃棄物処理計画（案）」について審議
- (4) その他